令和元年 12 月 24 日

第 145 回火山噴火予知連絡会による全国の火山活動の評価

全国の主な火山活動評価

桜島

南岳山頂火口では、９月以降噴火活動が活発化しています。桜島島内の傾斜計では９月上旬から山体の隆起、伸縮計では膨張を示す地殻変動が観測され、GNSS 連続観測でも９月頃からわずかな伸びが観測されています。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量も９月以降多い状態が続いていることから、今後も南岳山頂火口を中心に、活発な噴火活動が継続すると考えられます。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル３、入山規制）発表中

口永良部島

新岳火口では、２月２日にごく小規模な噴火が発生して以降、噴火は観測されていませんが、新岳の西側山麓のやや深い場所が震源と推定される火山性地震や新岳火口付近の浅いところを震源とする規模の大きな地震が発生するなど、地震活動はやや高まった状態です。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、11 月頃からやや多い状態で推移しています。このように火山活動はやや高まった状態となっており、引き続き噴火の可能性があります。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル３、入山規制）発表中

西之島

12 月５日に地表面温度が明瞭に高い状態が観測されたため噴火が開始したと推定されました。６日に上空からの観測により溶岩流が観測されました。島の中央部やや南に位置する火砕丘の山頂火口から噴石が飛散し、東山腹からは溶岩が流出していました。15 日には、北山腹からも溶岩が流出し、海に達していました。今回の噴火は、2013～2015 年、2017 年、2018 年の噴火活動と同様に、火砕丘の山頂火口とその周辺で発生しており、噴火様式はこれまでとほぼ同様と考えられ、噴火活動は活発な状態です。その後、地表面温度は、島の南と西に大量の溶岩が流れた 2017 年噴火時よりも高い状態になっています。今後も噴火活動が継続すれば 2017 年の噴火の規模を上回る恐れがあります。

【参考】火口周辺警報（入山危険）発表中

草津白根山

1982年から1983年にかけて小規模な水蒸気噴火を繰り返した湯釜付近の地震活動は1993年以降低調でしたが、2002年頃から徐々に高まっており、地震増加に先行して北側噴気地帯のガス組成の変化がみられることがあります。また、湯釜湖水の化学組成にも、高温の火山ガスに由来する成分の増加がみられることがあります。

2014年及び2018年には、湯釜付近の浅部に火山性流体の一時的な供給の増加によると考えられる火山性地震の増加などがみられ、GNSS連続観測でも、草津白根山の北西～西側の深部の膨張を示唆する変化が繰り返し観測され、それらは収縮に転じていません。また、本白根山では、2018年に水蒸気噴火が発生しました。

以上のことから、草津白根山の火山活動は、中長期的にみると活発な状態になっています。草津白根山浅部の活動だけではなく、草津白根山の北西もしくは西側の地殻変動や周辺の地震活動にも注意していく必要があります。

白根山（湯釜付近）

湯釜付近の浅部の活動は、2019年９月上旬から火山性地震がやや増加したこと、高温の火山ガスの供給が続いていること、全磁力観測では2018年４月以降、水釜付近の地下の温度上昇を示唆する変化がみられたこと、湯釜湖水の成分分析では、2014年以降、高温の火山ガスに由来する成分の濃度が依然として高いことから、湯釜付近の浅部に火山性流体の供給が続いており、2018年９月下旬からの高まった状態が継続していると考えられます。引き続き、小規模な水蒸気噴火が発生する可能性があります。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）発表中

本白根山

鏡池北火口付近のごく浅部を震源とするごく微小な地震は徐々に減少し、2018年12月以降少ない状態で経過しているが、時折やや増加しました。鏡池北火口の北側の火口列からの噴気は観測されていません。火山活動は、現在のところ静穏な状態ですが、逢ノ峰付近では時々地震が発生しており、引き続き、火山活動の推移に注意する必要があります。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

阿蘇山

中岳第一火口では４月 16 日の噴火以降、噴火活動が継続しています。７月末頃から、噴出物には高温のマグマが急冷した本質物質が多く含まれるようになりました。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は増減を繰り返しながら 10 月頃に非常に多い状態となり、その後一時的に減少したものの多い状態で変動を繰り返しています。火山性微動の振幅は 10 月頃に大きくなり、11 月頃から一時的に減少しましたが、再び緩やかな増大傾向を示しています。中岳第一火口では、火映や赤熱現象がみられる等、火口内の熱活動は高まった状態でした。GNSS 連続観測では、深部にマグマだまりがあると考えられている草千里を挟む基線において、2018 年後半頃から緩やかに伸びの傾向を示しています。

以上のことから、火山活動は高まった状態で経過しており、今後も噴火活動が継続する可能性があります。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）発表中

薩摩硫黄島

11 月２日に噴火が発生し、灰白色の噴煙が火口縁上 1,000m程度まで上がりました。噴火の前後で地震活動等に特段の変化はありませんが、夜間に火映が観測され、時折噴煙が高くなるなど、長期的には熱活動が高まった状態が続いています。硫黄岳火口周辺では、噴火に警戒する必要があります。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）発表中

諏訪之瀬島

御岳（おたけ）火口では、噴火が時々発生しました。諏訪之瀬島では長期的に噴火を繰り返しており、今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されます。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）発表中

十勝岳

2006 年以降継続していた山体浅部の膨張を示す地殻変動に停滞が認められていますが、噴煙高の高い状態、地熱域の拡大や温度上昇、地震の一時的な増加など、長期的に火山活

動の活発化を示唆する現象が観測されていますので、今後の活動の推移に注意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

浅間山

山頂火口で小噴火が８月７日に発生しました。噴火発生前から、山体浅部を震源とする低周波の地震が急減し、山頂付近の微小地震が増加しました。８月７日の噴火前の低周波地震の減少がみられた時期に、火口底の温度の低下が認められました。これらのことから、８月７日の噴火は、火道閉塞により圧力が高まり発生した可能性があります。

８月 25 日に発生した噴火前後にも、地震活動の低下、火口底の温度の低下などの類似の現象がみられました。８月７日、25 日の火山灰の分析結果では、水蒸気噴火の特徴をもつ噴火であったと推定されます。

10 月以降は、火山性地震は少ない状態で推移しており、噴煙活動の活発化、二酸化硫黄の放出量増加も認められません。また、期間を通して、Ａ型地震の増加、及び 2015 年や 2017 年のような深部からのマグマ上昇を示す地殻変動は観測されていません。

以上のことから、浅間山の火山活動は活発化する傾向にはありませんが、今後も火口から 500m以内の範囲に影響を及ぼす程度のごく小規模な噴火が突発的に発生する可能性があります。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

焼岳

７月下旬から、空振を伴う地震が時々発生しました。山頂付近の微小な地震活動は継続しています。また、GNSS 連続観測では山頂部付近で緩やかな膨張が続いているとみられます。中長期的に焼岳の火山活動は高まってきており、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

箱根山

５月にカルデラ内で増加した火山性地震は９月に減少し、現在は地震活動が活発になった５月より前の状態となっています。GNSS 連続観測では、３月中旬頃からみられていた箱根山を挟む基線の伸びは８月下旬頃から鈍化し、現在はほぼ停滞しています。以上のことから、大涌谷周辺の想定火口域では、噴火の可能性は低くなったと考えられます。

大涌谷周辺の想定火口域では活発な噴気活動が続いているため、火山灰等の突発的な噴出現象に注意する必要があります。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

霧島山

広域の GNSS 連続観測では、霧島山の深い場所でのマグマの蓄積を示すと考えられる基線の伸びは 2019 年２月以降停滞し、その後、大きな変化はありません。地震活動は、引き続き、新燃岳、硫黄山の周辺部、韓国岳の周辺などで認められています。

霧島山深部には、これまでにマグマが蓄積されていると考えられ、広範囲の地震活動も続いていることから、火山活動の推移を引き続き慎重に監視する必要があります。

えびの高原（硫黄山）周辺

硫黄山では、2018年４月27日以降、噴火は発生していません。噴気活動は活発な状態が続いていますが、2019年１月以降はその領域のさらなる拡大は認められません。硫黄山付近では、火山性地震は少ない状態で経過しています。GNSS連続観測では、硫黄山近傍の基線の伸びは2019年２月頃から停滞もしくはわずかに収縮しています。硫黄山では、

現時点では噴火の兆候は認められませんが、火山活動の推移には留意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

新燃岳

新燃岳では2018年６月28日以降、噴火は観測されていません。新燃岳では、現時点で噴火の兆候は認められませんが、11月17日から18日にかけて新燃岳火口直下を震源とする火山性地震が一時的に増加したことから、火山活動の推移には留意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

御鉢

御鉢の火山活動に特段の変化はなく、現時点では噴火の兆候は認められませんが、火山活動の推移に留意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

各地方の主な活火山の火山活動評価

１．北海道地方

①　アトサヌプリ

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

②　雌阿寒岳

中マチネシリ火口付近の地震回数はやや多いものの、ポンマチネシリ火口直下浅部の地震は少なく、噴煙活動も低調に経過しており、火山活動は概ね静穏に経過しています。

・噴煙・噴気活動は低調に経過しています。
・中マチネシリ火口付近の地震は、増減を繰り返しながら 2014 年以前と比べるとやや多い状態が継続しています。
・ポンマチネシリ火口の地震は、2019 年１月以降は赤沼火口直下を震源とするイベントがやや多く、2018 年 11 月に増加したポンマチネシリ火口南東の地震は少ない状態で経過しています。
・６月及び９月下旬から 10 月上旬にかけて実施した山頂付近の GNSS 繰り返し観測では、ポンマチネシリ赤沼火口付近の基線で 2018 年から伸びの変化がみられました。この変化は火口浅部の膨張による変動によるものと考えられます。
・2016 年 10 月下旬以降の、雌阿寒岳の北東側に膨張源が推定される地殻変動は、2017 年５月以降変動量が小さくなり、2018 年末ごろから停滞または収縮に転じています。
・全磁力連続観測では、2016 年 10 月頃から継続していたポンマチネシリ 96-1 火口南側の全磁力の増加傾向は、2018 年８月頃から停滞していると考えられます。

③　大雪山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

④　十勝岳

2006 年以降継続していた山体浅部の膨張を示す地殻変動に停滞が認められていますが、噴煙高の高い状態、地熱域の拡大や温度上昇、地震の一時的な増加など、長期的に火山活動の活発化を示唆する現象が観測されていますので、今後の活動の推移に注意が必要です。

・山体浅部の膨張を示すと考えられる地殻変動は、2017 年秋以降に停滞し、2018 年春頃から収縮を示す動きに転じた可能性があります。
・大正火口の噴煙の高さは 2010 年頃から、振子沢噴気孔群の噴気の高さは 2018 年４月下旬頃から、それぞれやや高い状態が継続しています。
・2018 年５月下旬以降、火山性地震の一時的な増加や火山性微動が時々発生しており、山頂付近の傾斜計でごくわずかな傾斜変化を伴うことがありました。2019 年 11 月１日 07 時頃から２日 07 時頃にかけて、火口近傍の傾斜計で、62-2 火口方向が上がる傾斜変動を観測し、その後、５日 04 時 30 分頃から午後にかけて、62-2 火口方向が下がる傾斜変動を観測しました。また、傾斜変動がみられた期間には、一時的な火山性地震の増加や振幅が小さい火山性微動が発生しました。傾斜変動及び、火山性微動や火山性地震は、62-2 火口付近の浅い所で発生したと考えられます。

⑤　樽前山

火山活動は概ね静穏に経過しています。山頂溶岩ドーム周辺では、1999 年以降、高温の状態が続いていますので、突発的な火山ガス等の噴出の可能性があります。

⑥　倶多楽

笠山周辺で局所的な熱活動の高まりがみられていますが、火山活動は概ね静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑦　有珠山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑧　北海道駒ヶ岳

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑨　恵山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

２．東北地方

①　岩木山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

②　八甲田山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

③　十和田

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

④　秋田焼山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑤　岩手山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑥　秋田駒ヶ岳

山頂付近では火山性地震の活動がやや活発な状況が続いています。また、女岳付近では地熱活動が続いていることから、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

⑦　鳥海山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑧　栗駒山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑨　蔵王山

火山活動に特段の変化はありません。

蔵王山では、2013 年以降、時々、火山性地震や火山性微動が発生し、地殻変動がみられています。今後の火山活動の推移に注意が必要です。

⑩　吾妻山

2018 年５月頃からみられた火山活動の高まりに伴う地震活動と地殻変動は、ほぼ終息したと考えられます。一方、火山ガスの放出を伴う噴気や高温域などの地熱活動は、やや低下したものの継続しており、過去の事例から、しばらくはその状態が続くと予想されます。また、一連の活動と同様の現象が繰り返して発生する可能性があることに留意する必要があります。

・2019 年５月に一時活発化した、大穴火口付近浅部を震源とする高周波の火山性地震活動は、６月以降少ない状態で経過しています。
・浄土平観測点の傾斜計及びGNSS連続観測では、2019年５月中旬以降認められていた、大穴火口付近浅部の収縮を示す変化は徐々に緩やかとなっており、静穏な時期の変化傾向に近づいています。
・火山ガス連続観測では、2018 年７月下旬頃に上昇、９月以降は高い値で推移していた火山ガスの濃度比（二酸化硫黄/硫化水素）は、2019 年６月頃より低下傾向を示していましたが、９月頃からは概ね停滞しています。
・全磁力連続観測では、2018 年９月頃からみられていた大穴火口北西の地下浅部での熱消磁の進行を示唆する変化は、2019 年２月頃から鈍化が認められ、現在は概ね 2018 年８月以前の変化傾向に戻っています。
・浄土平監視カメラの熱映像データでは、2018 年 10 月頃からみられた地熱域の拡大、地表面最高温度の上昇は、概ね 2019 年１月頃をピークとして、その後は減少・低下傾向あるいは停滞が認められています。また、八幡焼南部では５月中旬頃より温度上昇、地熱域の拡大が認められていましたが、現在は停滞しています。

⑪　安達太良山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑫　磐梯山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

３．関東・中部地方、伊豆・小笠原諸島

①　那須岳

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

②　日光白根山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

③　草津白根山

1982 年から 1983 年にかけて小規模な水蒸気噴火を繰り返した湯釜付近の地震活動は 1993 年以降低調でしたが、2002 年頃から徐々に高まっており、地震増加に先行して北側噴気地帯のガス組成の変化がみられることがあります。また、湯釜湖水の化学組成にも、高温の火山ガスに由来する成分の増加がみられることがあります。

2014 年及び 2018 年には、湯釜付近の浅部に火山性流体の一時的な供給の増加によると考えられる火山性地震の増加などがみられ、GNSS 連続観測でも、草津白根山の北西～西側の深部の膨張を示唆する変化が繰り返し観測され、それらは収縮に転じていません。また、本白根山では、2018 年に水蒸気噴火が発生しました。

以上のことから、草津白根山の火山活動は、中長期的にみると活発な状態になっています。草津白根山浅部の活動だけではなく、草津白根山の北西もしくは西側の地殻変動や周辺の地震活動にも注意していく必要があります。

白根山（湯釜付近）

湯釜付近の浅部の活動は、2019年９月上旬から火山性地震がやや増加したこと、高温の火山ガスの供給が続いていること、全磁力観測では2018年４月以降、水釜付近の地下の温度上昇を示唆する変化がみられたこと、湯釜湖水の成分分析では、2014年以降、高

温の火山ガスに由来する成分の濃度が依然として高いことから、湯釜付近の浅部に火山性流体の供給が続いており、2018年９月下旬からの高まった状態が継続していると考えられます。引き続き、小規模な水蒸気噴火が発生する可能性があります。

・2018年９月下旬に増加した湯釜付近の浅部の火山性地震は、増減を繰り返しながら活動が継続しており、2019年９月中旬以降はやや多い状態が継続しています。なお、傾斜変動を伴う火山性微動は、2019年１月を最後に発生していません。
・湯釜付近の浅部の膨張を示す傾斜変動は、2019年４月中旬以降は明瞭ではありませんでしたが、９月上旬頃から再び観測されています。
・GNSS連続観測では、深部の膨張によると考えられる変動は認められません。また、2014年にみられたような浅部の膨張を示す変動も認められません。
・湯釜湖水の成分分析では、2018年５月頃から、高温の火山ガスに由来する成分の濃度は依然として高い状態にあり、湯釜付近の浅部に火山性流体の供給が続いていると考えられます。また、2018年５月及び９月の地震増加と地殻変動の発生に伴い、湯釜北側の噴気の火山ガス成分の濃度比（二酸化炭素/硫化水素）が変化する傾向などがみられました。これは、湯釜付近の浅部への火山性流体の一時的な供給増加によるものと考えられます。
・湯釜火口湖の水温や白根山の地表面の温度分布に顕著な変動はありません。
・全磁力連続観測では、2018年4月頃からみられた温度上昇を示唆する消磁傾向の変化は2018年７月末頃から停滞していましたが、2018年10月と2019年10月に実施した繰り返し観測では、水釜付近の地下で熱消磁現象が進行していたことを示唆する変化が観測されました。

本白根山

鏡池北火口付近のごく浅部を震源とするごく微小な地震は徐々に減少し、2018年12月以降少ない状態で経過しているが、時折やや増加しました。鏡池北火口の北側の火口列からの噴気は観測されていません。火山活動は、現在のところ静穏な状態ですが、逢ノ峰付近では時々地震が発生しており、引き続き、火山活動の推移に注意する必要があります。

・2018年１月23日の噴火発生後、多発した鏡池北火口付近のごく浅部を震源とするごく微小な火山性地震は徐々に減少し、2018年12月以降、少ない状態で経過していますが、７月及び11月頃、やや増加しました。
・噴火発生後、鏡池北火口の北側の火口列から、ごく弱い噴気が時折確認されていましたが、2018年２月22日を最後に観測されていません。地表面温度分布に顕著な変化はみとめられません。
・GNSS連続観測では、特段の変化は観測されていません。
・なお、逢ノ峰付近を震源とする地震は、時々発生しています。

④　浅間山

山頂火口で小噴火が８月７日に発生しました。噴火発生前から、山体浅部を震源とする低周波の地震が急減し、山頂付近の微小地震が増加しました。８月７日の噴火前の低周波地震の減少がみられた時期に、火口底の温度の低下が認められました。これらのことから、８月７日の噴火は、火道閉塞により圧力が高まり発生した可能性があります。

８月25日に発生した噴火前後にも、地震活動の低下、火口底の温度の低下などの類似の現象がみられました。８月７日、25日の火山灰の分析結果では、水蒸気噴火の特徴をもつ噴火であったと推定されます。

10月以降は、火山性地震は少ない状態で推移しており、噴煙活動の活発化、二酸化硫黄の放出量増加も認められません。また、期間を通して、A型地震の増加、及び2015年

や 2017 年のような深部からのマグマ上昇を示す地殻変動は観測されていません。

以上のことから、浅間山の火山活動は活発化する傾向にはありませんが、今後も火口から 500m以内の範囲に影響を及ぼす程度のごく小規模な噴火が突発的に発生する可能性があります。

・８月７日 22 時 08 分に山頂火口で小噴火が発生し、噴火は約 20 分間継続しました。噴煙は火口縁上 1800m以上あがり、北へ流れました。監視カメラによる観測では、弾道を描いて飛散する大きな噴石は、火口から 200m程度まで達しました。火砕流は発生していません。
・噴火による降灰は火口北側の群馬県で確認され、現地調査結果から、総降灰量は少なくとも 80 トン程度と推定されます。
・火山灰の分析では、明らかな本質物質（新たなマグマ物質）と考えられる粒子はほとんど含まれておらず、この噴火は水蒸気噴火の特徴をもつ噴火であったと推定されます。
・山体浅部を震源とする低周波の地震が 2018 年６月頃から増減を繰り返していましたが、８月２日に急減し、山頂付近の微小地震が増加しました。
・山頂部の全磁力観測によると、2019 年３月から火口南東の観測点で減少傾向がみられましたが、８月中旬以降は増加傾向に戻りました。
・東京大学の火口底の赤外熱映像の観測では、８月７日の噴火前の低周波地震の減少がみられた時期に、火口底の温度の低下が認められました。
・７日の噴火後、やや高周波の地震が一時的に増加するとともに、低周波の地震が再び観測されるようになりました。
・その後、低周波の地震の急減、山頂付近の観測点のみで観測される微小地震の増加など、８月７日の噴火前と似たような現象がみられ、８月 25 日 19 時 28 分に、山頂火口でごく小規模の噴火が発生しました。噴煙は、火口縁上概ね 600mまで上がり、東へ流れました。弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流は発生しませんでした。火山灰の分析では、８月７日の噴火と同様に水蒸気噴火の特徴をもつ噴火であったと推定されます。
・９月 14 日以降、８月７日、25 日の噴火前と同様に山体浅部を震源とする低周波の地震が減少し、山頂付近の微小地震、およびやや高周波の地震が多い状況で推移していましたが、噴火は発生しませんでした。10 月上旬から、山頂付近の微小地震とやや高周波の地震は減少しました。一方で、その他の型の地震の発生頻度は徐々に多くなっています。期間を通して、A型地震の増加は観測されていません。
・８月７日に噴火が発生する前までは、山頂火口から一時的に白色噴煙が火口縁上 600mまで上がることがありましたが、概ね 400m以下で推移しました。火映は、2018 年７月 19 日以降、観測されていません。
・火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、2018 年３月以降、概ね１日あたり 200 トンとやや少ない状態で経過していました。８月７日の噴火以降は概ね 400 トン以下で推移し、９月中旬以降は更に少ない状態で経過しています。
・GNSS 連続観測や傾斜計では、2015 年や 2017 年にみられたような明瞭な変動はみられず、水準測量では沈降の継続が確認されました。

⑤　新潟焼山

火山活動は静穏な状態ですが、これまでにも噴気活動の活発化を繰り返しているため、今後の活動の推移に注意が必要です。

・2015 年夏頃から山頂部東側斜面の噴煙がやや高く上がる傾向が認められ、12 月下旬

からは噴煙量も多くなりましたが、2016 年秋から噴煙高度は低下した状態が続いています。
・2015 年３月頃から火山性地震回数が増加し始め、2016 年５月１日には更に増加し、低周波地震も発生しました。その後、火山性地震は減少し、少ない状態で経過しています。
・GNSS 連続観測では、2016 年１月頃から新潟焼山を南北に挟む基線で伸びがみられていましたが、2016 年夏以降は停滞しています。

⑥　弥陀ヶ原

弥陀ヶ原近傍の地震活動は静穏な状態が続いています。立山地獄谷では 2012 年６月以降、噴気の拡大や噴気温度の上昇など熱活動の活発化がみられており、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

⑦　焼岳

７月下旬から、空振を伴う地震が時々発生しました。山頂付近の微小な地震活動は継続しています。また、GNSS 連続観測では山頂部付近で緩やかな膨張が続いているとみられます。中長期的に焼岳の火山活動は高まってきており、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

・山頂付近の微小な地震活動が継続する中、７月 27 日以降、空振を伴う規模の小さい地震が時々観測されています。2017 年８月には空振を伴う地震の発生とともに黒谷火口からの噴気を観測されましたが、今回発生した空振や地震の規模は、それを超えるものではありませんでした。今期間に観測された地震の振幅と空振の発生状況から、2017 年と同様の現象が黒谷火口で発生したものと考えられます。
・山頂付近の微小な地震は、一日あたり数回～10 数回程度の頻度で発生しています。焼岳周辺の地震活動は、2018 年 11 月下旬以降、低調ながらも、継続していますが、この地震活動に伴って、噴気活動や浅部の地震活動に変化は認められていません。
・黒谷火口では、100ｍ以下の弱い噴気を時々観測しています。2018 年ころから噴気が観測される日数は徐々に増えています。空振を伴う地震が発生した時間帯に、噴気の高まりは認められませんでした。その後の観測でも、黒谷火口とその周辺部に、新たな噴出物は認められませんでした。また、赤外熱映像装置による観測では、焼岳の北側斜面及び黒谷火口内に、地熱域が認められています。黒谷火口以外の場所の噴気は、概ね高さは 100ｍ以下で経過しています。北側噴気地帯では、火山活動によるとみられる顕著な温度変化は認められていません。
・GNSS 連続観測では、山頂付近の観測点で基線のわずかな伸びがみられており、山頂部付近が緩やかに膨張していると考えられます。傾斜計による観測では、空振を伴う地震の発生に伴う現象も含め、火山活動によるとみられる変動は認められていません。

⑧　乗鞍岳

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑨　御嶽山

2014 年９月 27 日に噴火が発生した剣ヶ峰山頂の南西側の火口列からの噴気活動や山頂直下付近の地震活動は長期的な低下傾向が続いており、2014 年噴火口直下浅部が変動源とみられる山体の収縮も継続しています。

現在の火山活動には静穏化の傾向がみられることから、噴火が発生する可能性は低くなっていますが、噴気活動が活発な一部の噴気孔では、火山灰等のごく小規模な噴出が

突発的に発生する可能性があります。

⑩　白山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑪　富士山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑫　箱根山

５月にカルデラ内で増加した火山性地震は９月に減少し、現在は地震活動が活発になった５月より前の状態となっています。GNSS 連続観測では、３月中旬頃からみられていた箱根山を挟む基線の伸びは８月下旬頃から鈍化し、現在はほぼ停滞しています。以上のことから、大涌谷周辺の想定火口域では、噴火の可能性は低くなったと考えられます。

大涌谷周辺の想定火口域では活発な噴気活動が続いているため、火山灰等の突発的な噴出現象に注意する必要があります。

・大涌谷の火口や噴気孔では引き続き噴気が勢いよく噴出しており、噴気の高さは600ｍ以下で経過しました。大涌谷周辺の噴気や熱活動は2015年以降、高い状態が継続しています。大涌谷以外の噴気地帯でも、噴気や地熱域に特段の変化はみられませんでした。

・５月にカルデラ内で増加した火山性地震は、７月中旬に芦ノ湖南部で一時的に増加する等、増減を繰り返しながら推移していましたが、９月には減少し、10 月には５月の地震活動が活発化する前の状態になりました。震源は主に大涌谷付近から神山付近、及び芦ノ湖南部に分布しました。浅い低周波地震や火山性微動は発生していません。大涌谷付近から神山付近で発生している火山性地震の深さは、主に３～７km 付近で、３km より浅い火山性地震は少ない状態でした。

・GNSS 連続観測では、３月中旬頃からみられていた箱根山を挟む基線、および山体浅部の膨張と考えられる大涌谷周辺の短い基線の伸びは、８月下旬頃から鈍化し、10月にはほぼ停滞しました。傾斜計で３月中旬頃からみられていた、大涌谷方向が隆起する変化は９月には停滞し、３月上旬以前の状態に戻りました。

⑬　伊豆東部火山群

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑭　伊豆大島

三原山山頂火口内及びその周辺の噴気活動は低調に経過し、火山性地震は少ない状態で経過しており、ただちに噴火が発生する兆候は認められませんが、長期的には山体の膨張が継続していることから、火山活動は徐々に高まっていると考えられます。今後の火山活動の推移に注意が必要です。なお、短期的には、約１～３年周期で膨張と収縮を繰り返す地殻変動がみられ、膨張に伴い地震活動が活発化する特徴がみられます。2018年４月頃から膨張傾向がみられていましたが、2019年１月頃から収縮もしくは停滞に転じています。

⑮　新島

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑯　神津島

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑰　三宅島

地震活動は静穏で、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量も少ない状態が続いていますが、山体深部の膨張を示す地殻変動は鈍化しつつも続いており、山体浅部の膨張を示すと考えられる村営牧場南―雄山北東間で伸びの傾向が2019年４月頃からみられるようになりました。火山活動は徐々に高まり始めたと考えられます。また、主火孔の噴煙活動は弱いながらも続いており、火口内での噴出現象が突発的に発生する可能性があります。

⑱　八丈島

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑲　青ヶ島

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑳　西之島

12月５日に地表面温度が明瞭に高い状態が観測されたため噴火が開始したと推定されました。６日に上空からの観測により溶岩流が観測されました。島の中央部やや南に位置する火砕丘の山頂火口から噴石が飛散し、東山腹からは溶岩が流出していました。15日には、北山腹からも溶岩が流出し、海に達していました。今回の噴火は、2013～2015年、2017年、2018年の噴火活動と同様に、火砕丘の山頂火口とその周辺で発生しており、噴火様式はこれまでとほぼ同様と考えられ、噴火活動は活発な状態です。その後、地表面温度は、島の南と西に大量の溶岩が流れた2017年噴火時よりも高い状態になっています。今後も噴火活動が継続すれば2017年の噴火の規模を上回る恐れがあります。

・12月５日に空振が観測され噴火が開始したと推定されました。
・上空からの観測で、12月６日に噴火活動の再開が確認されました。島の中央部やや南に位置する火砕丘の山頂火口から噴石が飛散し、東山腹からの溶岩が流出しているのが確認されました。噴煙や噴石は、火口縁上約200ｍまで上がっていました。15日には、山頂火口から噴石が高さ300ｍまで噴き上げ、北山腹からも溶岩が流出し、海に達していました。
・気象衛星ひまわりの観測によると、12月４日に西之島の地表面温度は周辺よりもやや高い状態が認められ、５日には溶岩流出のあった2017年４月と同程度まで高い状態となりました。その後、地表面温度は更に高い状態になっており、溶岩の噴出率が上がっている可能性があります。
・SARによる解析では、15日及び20日に島の東側と西北西側において陸域の拡大が検出されました。

㉑　硫黄島

地殻変動や地震活動、噴気の状態など火山活動はやや活発な状態が続いており、今後も小規模な噴火が発生する可能性があります。

・火山性地震は、10月10日に日回数が100回を超えるなど一時的に活発な状態になりました。
・GNSS連続観測では、島全体の隆起がみられているなか、10月10日から14日にかけて主に硫黄島北部が沈降する短期的な変化がみられましたが、その後は隆起の傾向に戻っています。
・７月13日に南海岸で、８月28日に西側（釜岩付近）で、一部海底が海面上に露出部しているのが確認されました。

㉒　福徳岡ノ場

長期間にわたり変色水が確認されており、今後も小規模な海底噴火が発生すると予想

されます。

４．　九州地方・南西諸島

①　鶴見岳・伽藍岳

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

②　九重山

硫黄山の地熱域では温度の高い状態が続いています。2014 年以降、硫黄山付近の噴気孔群地下の温度上昇を示す全磁力の変化がみられており、わずかに火山活動が高まっている可能性があります。今後の火山活動に留意してください。

③　阿蘇山

中岳第一火口では４月 16 日の噴火以降、噴火活動が継続しています。７月末頃から、噴出物には高温のマグマが急冷した本質物質が多く含まれるようになりました。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は増減を繰り返しながら 10 月頃に非常に多い状態となり、その後一時的に減少したものの多い状態で変動を繰り返しています。火山性微動の振幅は 10 月頃に大きくなり、11 月頃から一時的に減少しましたが、再び緩やかな増大傾向を示しています。中岳第一火口では、火映や赤熱現象がみられる等、火口内の熱活動は高まった状態でした。GNSS 連続観測では、深部にマグマだまりがあると考えられている草千里を挟む基線において、2018 年後半頃から緩やかに伸びの傾向を示しています。

以上のことから、火山活動は高まった状態で経過しており、今後も噴火活動が継続する可能性があります。

・中岳第一火口では噴火活動が継続しています。７月末から、噴出物には高温のマグマが急冷した本質物質が多く含まれるようになり、８月以降発泡した本質物も放出されるようになりました。
・火山性微動の振幅は、10 月頃に大きくなりましたが 11 月頃に一時的に小さくなり、その後はやや大きい状態で推移しています。
・火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、増減を繰り返しながら 10 月頃に非常に多い状態となり、その後一時的に減少したものの、多い状態で変動を繰り返しています。
・火山性地震、孤立型微動は多い状態で経過しました。
・中岳第一火口では、火映や赤熱現象がみられる等、火口内の熱活動は高まった状態でした。9 月末頃から温度の上昇傾向がみられ、10 月 14 日には 191 火孔で 620℃を観測しています。
・全磁力観測では火口浅部の温度上昇が認められます。
・GNSS 連続観測では、深部にマグマだまりがあると考えられている草千里を挟む基線において、2018 年 12 月半ば以降から緩やかに伸びの傾向を示しています。

④　雲仙岳

GNSS 連続観測では山体西部のマグマだまりに対応する変動は認められておらず、火山活動は概ね静穏に経過していますが、2010 年頃から普賢岳から平成新山付近の深さ概ね１～２km の火山性地震が時々発生していますので、今後の火山活動に留意してください。

⑤　霧島山

広域の GNSS 連続観測では、霧島山の深い場所でのマグマの蓄積を示すと考えられる基線の伸びは 2019 年２月以降停滞し、その後、大きな変化はありません。地震活動は、引き続き、新燃岳、硫黄山の周辺部、韓国岳の周辺などで認められています。

霧島山深部には、これまでにマグマが蓄積されていると考えられ、広範囲の地震活動も続いていることから、火山活動の推移を引き続き慎重に監視する必要があります。

えびの高原（硫黄山）周辺

硫黄山では、2018 年４月 27 日以降、噴火は発生していません。噴気活動は活発な状態が続いていますが、2019 年１月以降はその領域のさらなる拡大は認められません。硫黄山付近では、火山性地震は少ない状態で経過しています。GNSS 連続観測では、硫黄山近傍の基線の伸びは 2019 年２月頃から停滞もしくはわずかに収縮しています。硫黄山では、現時点では噴火の兆候は認められませんが、火山活動の推移には留意が必要です。

・硫黄山の南側の噴気地帯では、活発な噴気活動が続いています。硫黄山の西側 500ｍ付近でも、やや活発な噴気活動が続いています。硫黄山周辺の沢の水の白濁は薄まりつつあり、水素イオン濃度や電気伝導度は、特段の変化は認められません。
・赤外熱映像装置による観測では、硫黄山周辺の噴気地帯でこれまでと同様に地熱域を確認しました。
・全磁力観測では、北側の観測点では全磁力の増加が、南側の観測点では全磁力の減少が継続していますが、その変動の傾向は 2019 年４月頃から鈍化しています。
・硫黄山付近では、火山性地震は概ね少ない状態で経過しました。浅い所を震源とする低周波地震は少ない状態です。火山性微動は、2018 年６月 20 日以降、観測されていません。
・GNSS 連続観測では、硫黄山近傍の基線の伸びは 2019 年２月頃から停滞もしくはわずかに収縮しています。
・精密水準測量では、硫黄山の地下 600～700ｍにあると推定される圧力源は、2017 年 10 月以降膨張を続けていましたが、2018 年 12 月以降の膨張はほぼ停止状態であると推定されます。
・硫黄山周辺の湧水と噴気の濃度比は、2019 年１月以降マグマの寄与の低下を示す変化がみられていますが、一部ではマグマの寄与が高いことを示す値が続いています。

新燃岳

新燃岳では 2018 年６月 28 日以降、噴火は観測されていません。新燃岳では、現時点で噴火の兆候は認められませんが、11 月 17 日から 18 日にかけて新燃岳火口直下を震源とする火山性地震が一時的に増加したことから、火山活動の推移には留意が必要です。

・新燃岳では 2018 年６月 28 日以降、噴火は観測されていません。
・新燃岳火口直下を震源とする火山性地震は、少ない状態で経過していましたが、11 月 17 日から 18 日にかけて一時的に増加しました。
・傾斜計では山体膨張を示す変化は認められていません。
・GNSS 連続観測では、顕著な地殻変動は観測されていません。

御鉢

御鉢の火山活動に特段の変化はなく、現時点では噴火の兆候は認められませんが、火山活動の推移に留意が必要です。

⑥　桜島

南岳山頂火口では、９月以降噴火活動が活発化しています。桜島島内の傾斜計では９月上旬から山体の隆起、伸縮計では膨張を示す地殻変動が観測され、GNSS 連続観測でも

９月頃からわずかな伸びが観測されています。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量も９月以降多い状態が続いていることから、今後も南岳山頂火口を中心に、活発な噴火活動が継続すると考えられます。

・南岳山頂火口における噴火活動は９月以降再び活発となっています。爆発回数は６月２回、７月５ 回、８月０回、９月 11 回、10 月 41 回、11 月 77 回でした。11 月８日の爆発では、噴煙は最高で火口縁上 5,500ｍまで上がりました。また 10 月以降に弾道を描いて飛散する大きな噴石が４合目（南岳山頂火口より 1,300～1,700ｍ）まで達する爆発が４回発生しました。爆発に伴う空振は、10 月以降、桜島島内の観測点（横山）で時々50Pa を超えるなど、やや振幅が増大しました。
・南岳山頂火口では、夜間に火映を観測しました。
・昭和火口では 2018 年４月４日以降、ごく小規模な噴火も発生していません。
・火山ガス（二酸化硫黄）の１日あたりの放出量は、６月 700～1,200 トン、７月 1,200～1,800 トン、８月 1,000～2,000 トン、９月 1,100～2,300 トン、10 月 2,000～2,800 トン、11 月 2,600～3,600 トンと９月頃から多い状態で経過しました。
・鹿児島県が実施している降灰の観測データから推定した桜島の火山灰月別噴出量は、６月約３万トン、７月約６万トン、８月約４万トン、９月約８万トン、10 月約 15 万トンで、少ない状態で経過しましたが、10 月から増加しました。
・火山性地震は概ね少ない状態で経過しましたが、10 月以降増加しました。火山性微動は時々発生しましたが、ほとんどは噴火に伴うものでした。
・９月頃から、桜島島内での山体の隆起・膨張や姶良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部の膨張を示す地盤変動が観測されています。
・GNSS 連続観測では、桜島島内で山体北側の膨張・隆起が観測されました。

⑦　薩摩硫黄島

11 月２日に噴火が発生し、灰白色の噴煙が火口縁上 1,000ｍ程度まで上がりました。噴火の前後で地震活動等に特段の変化はありませんが、夜間に火映が観測され、時折噴煙が高くなるなど、長期的には熱活動が高まった状態が続いています。硫黄岳火口周辺では、噴火に警戒する必要があります。

・11 月２日に噴火が発生し、灰白色の噴煙が火口縁上 1,000ｍ程度まで上がりました。この噴火に伴う火砕流や噴石は観測されませんでした。上空からの観測では、周辺に火山灰の堆積などの噴火の明瞭な痕跡はなく、山麓でも降灰は認められませんでした。
・硫黄岳では引き続き火映を時々観測しました。
・硫黄岳火口で時々1,000ｍを超える噴煙活動が続いています。火口内の噴気温度は最高 847℃（10 月 30 日）で、前回（2017 年 11 月）と大きな変化はみられず、引き続き高温でした。
・硫黄岳周辺の地熱域の状況に特段の変化は認められません。
・火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、１日あたり 300～1,400 トンと、概ねやや多い状態でした。
・硫黄岳付近の火山性地震は少ない状態で経過し、噴火の前後で特段の変化はありません。

⑧　口永良部島

新岳火口では、２月２日にごく小規模な噴火が発生して以降、噴火は観測されていませんが、新岳の西側山麓のやや深い場所が震源と推定される火山性地震や新岳火口付近の浅いところを震源とする規模の大きな地震が発生するなど、地震活動はやや高まった状態です。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、11 月頃からやや多い状態で推移してい

ます。このように火山活動はやや高まった状態となっており、引き続き噴火の可能性があります。

・２月２日にごく小規模な噴火が発生して以降、噴火は観測されていません。
・火山性地震は少ない状態で経過していましたが、10月18日には新岳の西側山麓のやや深い場所が震源と推定される火山性地震が９回発生し、10月18日及び27日に新岳火口付近の浅いところを震源とする規模の大きな地震（最大でマグニチュード１程度、山麓で体に感じない程度）も発生するなど、地震活動が高まりました。11月にも新岳火口付近の火山性地震が時々増加しています。
・11月頃から、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は増加し、やや多い状態で推移しており、10月中旬から新岳火口の噴煙から算出した放熱率も上昇しています。
・GNSS連続観測では、2018年７月頃から停滞していた島内の基線に、10月頃からわずかな伸びの変化がみられます。
・山麓からの観測では、新岳火口西側割れ目付近の地熱域の状況に特段の変化は認められませんでした。
・12月に実施した水準測量観測では、2018年～2019年噴火以前に行った2018年８月の測量と比較して新岳山体の沈降が認められています。

⑨　諏訪之瀬島

御岳（おたけ）火口では、噴火が時々発生しました。諏訪之瀬島では長期的に噴火を繰り返しており、今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されます。

・御岳火口では、噴火が時々発生しました。
・御岳火口では、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測しました。
・火山性地震は概ね少ない状態で推移しました。11月には３日、６日、13日、23日に島内で震度１以上を観測する地震があり、最大のものは震度３でした。
・十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、集落（御岳の南南西約４km）では、時々降灰や鳴動が確認されました。

その他の活火山の火山活動評価

以下の活火山では、いずれも火山活動は静穏な状況が続いています。

１．北海道地方

知床硫黄山、羅臼岳、天頂山、摩周、雄阿寒岳、丸山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山

２．東北地方

恐山、八幡平、鳴子、肘折、沼沢、燧ヶ岳

３．関東・中部地方、伊豆・小笠原諸島

高原山、男体山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、アカンダナ山、利島、御蔵島、須美寿島、伊豆鳥島、孀婦岩、海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福徳堆、南日吉海山、日光海山

４．中国・九州地方・南西諸島

三瓶山、阿武火山群、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄鳥島、西表島北北東海底火山

【参考】主な活火山の火山現象に関する特別警報・警報・予報の発表状況

	火山名	特別警報、警報及び予報の発表状況 及び警戒事項	第144回（令和元年7月2日）以降の 特別警報、警報及び予報の発表状況及び発表年月日
北海道地方	アトサヌプリ	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2016年３月23日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	雌阿寒岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2018年12月21日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	大雪山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2019年３月18日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	十勝岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2015年２月24日噴火予報（レベル１、平常）
	樽前山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日噴火予報（レベル１、平常）
	倶多楽	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2015年10月１日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	有珠山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2008年６月９日噴火予報（レベル１、平常）
	北海道駒ヶ岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日噴火予報（レベル１、平常）
	恵山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2016年３月23日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
東北地方	岩木山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2016年７月26日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	秋田焼山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2013年７月25日噴火予報（レベル１、平常）
	八甲田山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日噴火予報（平常） 2019年７月30日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	十和田	噴火予報（活火山であることに留意）	2007年12月１日噴火予報（平常）
	岩手山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日噴火予報（レベル１、平常）
	秋田駒ヶ岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2009年10月27日噴火予報（レベル１、平常）
	鳥海山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2018年３月27日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	栗駒山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2019年５月30日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	蔵王山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2018年３月６日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	吾妻山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2019年６月17日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	安達太良山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2009年３月31日噴火予報（レベル１、平常）
	磐梯山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2009年３月31日噴火予報（レベル１、平常）
関東・中部地方	那須岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2009年３月31日噴火予報（レベル１、平常）
	日光白根山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2016年12月６日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	草津白根山	噴火予報（活火山であることに留意）	2018年11月27日噴火予報（活火山であることに留意）
	草津白根山（白根山（湯釜付近））	火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 湯釜火口から概ね１km の範囲では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください	2018年11月27日火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）

	火山名	特別警報、警報及び予報の発表状況 及び警戒事項	第144回（令和元年7月2日）以降の 特別警報、警報及び予報の発表状況及び発表年月日
関東・中部地方	草津白根山（本白根山）	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2019年４月５日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	浅間山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2018年８月30日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意） 2019年８月７日火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2019年８月19日火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2019年11月６日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	新潟焼山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2011年３月31日噴火予報（レベル１、平常）
	弥陀ヶ原	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2019年５月30日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	焼岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2011年３月31日噴火予報（レベル１、平常）
	乗鞍岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2019年３月18日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	御嶽山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2017年８月21日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	白山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2015年９月２日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	富士山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日噴火予報（レベル１、平常）
	箱根山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2019年５月19日火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2019年10月７日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	伊豆東部火山群	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2011年３月31日噴火予報（レベル１、平常）
伊豆・小笠原諸島	伊豆大島	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日噴火予報（レベル１、平常）
	新島	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2019年７月30日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	神津島	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日噴火予報（平常） 2019年７月30日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	三宅島	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2015年６月５日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	八丈島	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2018年５月30日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	青ヶ島	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2018年５月30日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	西之島	火口周辺警報（入山危険） 山頂火口から概ね 2.5km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石や溶岩流に警戒してください。	2018年10月31日火口周辺警報（火口周辺危険） 2019年12月５日火口周辺警報（入山危険） 2019年12月16日火口周辺警報（入山危険）
	硫黄島	火口周辺警報（火口周辺危険） 従来から小規模な噴火が発生した地点及びその周辺では警戒してください。	2007年12月１日火口周辺警報（火口周辺危険）
	福徳岡ノ場	噴火警報（周辺海域警戒） 周辺海域では海底噴火に警戒してください。	2007年12月１日噴火警報（周辺海域警戒）

	火山名	特別警報、警報及び予報の発表状況 及び警戒事項	第144回（令和元年7月2日）以降の 特別警報、警報及び予報の発表状況及び発表年月日
九州地方・南西諸島	鶴見岳・伽藍岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2016年７月26日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	九重山	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日噴火予報（レベル１、平常）
	阿蘇山	火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 中岳第一火口から概ね１km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。	2019年４月14日火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）
	雲仙岳	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2007年12月１日噴火予報（レベル１、平常）
	霧島山	噴火予報（活火山であることに留意）	2016年12月６日噴火予報（活火山であることに留意）
	霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2019年４月18日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	霧島山（新燃岳）	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2019年４月５日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意） 2019年11月18日火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2019年12月20日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	霧島山（御鉢）	噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）	2018年３月15日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意）
	桜島	火口周辺警報（レベル３、入山規制） 南岳山頂火口及び昭和火口から概ね２km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。	2016年２月５日火口周辺警報（レベル３、入山規制）
	薩摩硫黄島	火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 火口から概ね１km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。	2018年４月27日噴火予報（レベル１、活火山であることに留意） 2019年11月２日火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）
	口永良部島	火口周辺警報（レベル３、入山規制） 新岳火口から概ね２km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。また、向江浜地区から新岳の南西にかけての火口から海岸までの範囲では、火砕流に警戒してください。	2019年６月12日火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2019年10月28日火口周辺警報（レベル３、入山規制）
	諏訪之瀬島	火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 御岳（おたけ）火口から概ね１km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。	2007年12月１日火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）

注）この表では、主な活火山として、警報を発表している、または常時観測を行っている火山を示しています。また、ここで示すレベルは噴火警戒レベルを示しています。